

歴史とスポーツふれあいセンター及び堂山古墳群史跡広場 内部評価結果
(施設所管課による評価)

【評価対象施設】 歴史民俗資料館・ふれあいルーム・四条体育館・四条グラウンド・堂山古墳群史跡広場
【指定管理者名】 株式会社 アステム
【評価対象年度】 令和7年度
【施設所管課名】 産業・文化部 生涯学習課、スポーツ振興課

業務内容についての評価

管理・運営は条例・協定書に基づき適正に行われています。

歴史民俗資料館では、春季、秋季、冬季に、地域の歴史・文化を深く掘り下げた企画展が開催されました。春季展は野崎観音を中心に、秋季展は御領地区の歴史や水利の歴史を中心に、地域の歴史的広がりを多角的・立体的に紹介され、大きな反響を得ています。特に秋季展では、アクロスでの出張展示や現地講演会・見学会など、地域と展示をつなぐ取り組みが強化されたことを評価します。また、冬季展や夏季に行われた体験型イベント「れきみんっ子★夏の工作体験」では、小学生がものづくりや昔の暮らしを体験できる機会を提供し、子どもたちが歴史・文化への関心を高めることに貢献しています。また、市民学芸員は、8チームに分かれて独自の活動に取り組み、資料館の運営や展示内容の充実に寄与しています。市民学芸員養成講座修了生の今後の活躍にも期待されます。

堂山古墳群史跡広場については、府民カレッジや大東シニア大学等の団体見学に協力した他、キッズツアーの企画や特別展「堂山古墳群のひみつ」図録の再販等を行うなど、史跡のPRに努めています。今後も、堂山古墳群の価値や魅力を広く市民に伝え、郷土愛を育む取り組みを推進していかれることを期待します。

生涯学習施設では、施設利用団体と連携した「生涯学習チャレンジ」が複数回行われたほか、市内の公共機関や学校、公民館、東部図書館等と連携した事業がいずれも参加者から高評価を得ています。また、昨年度に引き続き、市民団体との協力事業として実施された「野崎プロレス×のざカフェ」や「アートベント絵具で遊ぼう！！大東市編」も多くの反響を得ており、事業の定着化が期待されます。

体育施設では、体育館の利用率が前年比3%増の92%と、高水準で推移しています。グラウンドの利用率が前年比1%増の48%と、微増になりました。個人参加で集まったメンバーが試合を行うという企画(サッカー・バスケットボール・グラウンドゴルフ・卓球等)を数多く実施しており、自分から既存チームに飛び込んで行くのには尻込みする方にも、個人で申し込むことができる形態で、気軽にスポーツを行う機会づくりに貢献いただいています。また、「身近なもので世界のニューススポーツを楽しもう」では、キンボールやモルックなどの幅広い年代が誰でも参加して楽しめるニューススポーツの普及に貢献していただけたと考えます。グラウンドは平日日中のニーズ画策など、難しい点があることを認識しておりますが、体育館の利用率との乖離を埋めるような魅力的なコンテンツづくりに期待しています。

利用者満足度についての評価

利用者アンケート結果では、総合評価が「満足」、「やや満足」、「普通」を合わせ 96% に達しており、前年度の 95% からさらに向上しました。これは、指定管理者が利用者のニーズにきめ細かく対応し、サービスの質を継続的に改善してきた努力の成果であり、非常に高く評価できます。施設スタッフの対応、清掃、施設の案内表示、イベント内容についても高い満足度を維持しており、利用者にとって快適で利用しやすい環境が提供されています。

一方で、歴史民俗資料館の展示について約 2/3 の認知に留まり、歴史講座や講演会、見学会については約半数の認知度に留まっています。また、多目的室の貸出についても約 5 割の認知度に留まっており、施設の利用機会が多くの市民に十分伝わっていない可能性があります。今後は、情報発信をさらに強化し、より多くの市民に施設の魅力が伝わるよう努めてください。

体育施設では、アンケート取得者の利用目的の 72% がスポーツを占める中、アスリートによるイベント開催を知らない方が 66%、個人参加できるサッカー・バスケットボールイベントの開催を知らない方が 54% と、半数以上が知らないという結果でした。この結果は、まだ自主事業への潜在ニーズがあることを意味していると考えます。今後も様々な媒体を通じたイベント PR を駆使して、新たな顧客開拓を進めていただくことを期待しています。また、体育館・グラウンドについては、設備の不備が大きな事故につながる危険性がありますので、引き続き、設備の点検・管理を徹底し、安心して安全なサービスを利用者に提供できるように努めてください。

収支状況についての評価

収入は、利用料金収入、駐車場利用料金、事業収入が前年度を上回っており、特に駐車場収入の増加は遠方からの利用者の増加を示唆しており、広域からの集客に成功していると評価できます。指定管理料と合わせた合計収入も増加しており、全体的な収益性が向上しています。

支出は、物価や人件費の上昇、猛暑による光熱費増加など、外部要因による支出増加が見られるものの、人件費の節減努力や効率的な施設管理により、支出が大幅に増加することを抑制しています。

これらの結果、令和 7 年度も黒字を維持しており、財政面での安定性が確認できます。令和 8 年度も国際情勢の変動に伴う物価高騰が件されますが、引き続き健全な収支決算となるよう努めてください。

総合評価

本市の歴史・文化に対する市民の誇りを醸成し、次世代に継承していくうえで、歴史民俗資料館の役割はきわめて重要です。令和 7 年度は、指定管理者がこれまで蓄積してきた豊富な経験とノウハウを活かし、地域の歴史・文化を深く掘り下げた企画展や、他施設・学校等との連携事業を実施され、来館者数が前年度から大幅に増加しました。今後も、様々な地域・時代を取り上げた魅力的な展示や講座等を実施するとともに、常設展示の更新や情報発信の強化により、リピーターだけでなく新規来館者にも来ていただけるよう一層努めてください。また、令和 8 年度に認定される「大東市文化財保存活用地域計画」に基づく事業の展開にも期待します。

生涯学習施設では、施設利用団体や公共機関、学校との連携を強化し、多岐にわたるプログラムを提供し、いずれも高い評価を得ており、来館者も前年度より増加しました。特に、市民団体との協力事業

は地域の活性化にも貢献し、定着化の兆しを見せています。今後も、生涯学習に対する市民のニーズを把握し、関係施設・団体等と連携しながら、幅広い世代に満足していただける魅力的な事業を展開されるとともに、SNS 等を活用した情報発信を強化することにより、新規利用者のさらなる増加に努めてください。

体育施設は、体育館、グラウンドともに利用率が前年度より向上しており、個人参加できるスポーツ企画を充実させた結果と考えます。このことは地域のスポーツ振興の拠点として、利用者に、スポーツをする機会の提供と、健康・体力づくりの増進を担う重要な施設であることが認識されている表れとして評価できます。一方、グラウンド利用率及び自主事業の認知度を向上することは、今後の課題になると考えます。アンケート結果からもわかるように、潜在ニーズがまだあると考えますので、SNS 等、様々な媒体を駆使した幅広いPRを行い、利用者数及び利用率の更なる上昇を期待します。今後も市民のスポーツニーズの把握に努め、幅広い年代が参加できる事業や地域に密着した事業やイベントをはじめ、市民が少しでもスポーツに関心を持てる取り組みを進めることで、さらなる利用促進につながることを期待します。